

第26回

SST全国経験交流ワークショップ

in 仙台

大会テーマ

小さくたってキラリと光る私の経験、
ワークショップでみんなの宝に！

開催日：2020年7月11日(土)～7月12日(日)

会場：トークネットホール仙台(仙台市民会館) 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1

主催：一般社団法人SST普及協会

共催：SST普及協会南東北支部

大会長：丹羽真一 SST普及協会南東北支部長／福島医大・会津医療センター

開催期間中の「分科会」をご紹介します。
仙台で『キラリと光るSSTの宝』を共有しましょう！

分科会

1 発達障害をもつ人をSSTで支える

白濁 光男：こおりやま ほっとクリニック 浅野 智子：こおりやま ほっとクリニック

神経発達症（発達障害）の特性としてコミュニケーション障害があげられますが、その中でも受信技能と処理技能に特性がある方が多いことが言われています。このワークショップでは送信技能に的を当てた基本訓練モデルではカバーしきれない課題が出てきた時、受信技能や送信技能に的を当てたSSTの進め方を紹介します。



2 地域で家族のリハビリを支援する～リフレクティングによる相互理解～

池田 耕治：アトラス福岡 長浜 美智子：アットホーム福祉会 龍 忠史：アットホーム福祉会

地域での生活は常に動きがあり、生活に関わる生々しい課題が幾つも挙げられます。支援者は当事者とご家族の「生活の質」を高めようと努力するのですが、お互いの相互理解が得られず双方ともに疲弊することがあるようです。この分科会では「相互理解」を促す方法を学びます。語りを大切にしたい全員が参加できる分科会にしていますので、ぜひお気軽にご参加ください。



3 SSTを実践するリーダーの姿勢や考え方を再考し実践力を高める

村本 好孝：株式会社ここから

今回の分科会では、SSTリーダーとしての姿勢（支援者の倫理的姿勢も含む）、そして実践力を高める機会にしたいと考えています。SSTが『SSTを必要とする全ての方々』に役立つ支援であるために、色々な視点から支援を再考したり、SST実践者の細かな工夫なども参加者と語り合いながら、一緒に練習できたらうれしいです。是非！！



4 Let's 退院支援

河岸 光子：吉祥寺病院 涉里さやか：吉祥寺病院

長期入院患者や退院困難な患者、また社会的入院患者へのアプローチをする中で、なかなか退院へ動きが見えずに看護現場では疲弊してしまう傾向を目にします。退院支援に関しての様々なツールを紹介しながら、チームで退院支援を悩まずに楽しく取り組むことを目指します。また、参加者から事例を提供していただき、一緒に取り組むアプローチを皆さんと考えてみましょう！ Let's退院支援！



初級研修会

一般社団法人SST普及協会研修委員会／SST普及協会南東北支部

これからSSTを始めたい、あるいはSSTを始めて間もない等、SSTを基本から学びたい方が対象です。一般社団法人SST普及協会の初級研修テキスト（標準版）に沿って学びます。講義とグループ演習でSSTリーダー体験を行います。2日間で計10時間のプログラムを修了された方には修了証を交付します。研修会の獲得目標①SSTの基本訓練モデルの流れを知って、実施できる。②適切な個人の練習目標を設定する方法を知る。③SSTのためのグループの形成と維持の方法を学ぶ。



認定講師研修会

一般社団法人SST普及協会研修委員会

認定講師研修会は一般社団法人SST普及協会認定講師の養成を目指して、同協会研修委員会主催で開催されます。認定講師を目指す方の必須研修となるものです。認定講師は最終的なゴールではなく、SST普及のための言わばスタートラインでもあります。そのためスキルがたくさん準備されています。認定講師録画審査への申し込みなどの事務的な手続きなども詳しく説明します。参加資格：認定講師を目指す方で、以下の2点を満たしている、または2年以内に満たす可能性のあるSST普及協会正会員に限ります。①SSTの実践経験として、90時間以上（週1回で2年間のリーダー体験がある。②SST普及協会認定講師が指導した研修会にリーダーとして参加し、SSTのデモンストレーションおよび参加者に実技指導を行った経験がある。



認定講師フォローアップセミナー

一般社団法人SST普及協会研修委員会

認定講師フォローアップセミナーでは、全国のSST研修で活躍する認定講師が受講生に対して、より質の高い研修を提供できるように学びたいと考えています。今回の研修会では、全国の認定講師が今、「学びたい事」を取り上げます。「研修の進め方」など「いまさら聞けない」と思っている大歓迎です。今回は認定講師ではないけどのぞいてみたい、未来の認定講師も大歓迎です。認定講師としてたった一人で研修に挑むことも多い講師の皆さんとSSTという共通言語でつながりましょう。



『第26回SST全国経験交流ワークショップin仙台』の「詳しい内容」や「事前参加申込」は、2020年1月中旬開設の本大会ホームページをご覧ください。(一社)SST普及協会ホームページにリンクされます。



(一社)SST普及協会ホームページ

<http://www.jasst.net/>

2020年7月、仙台でお待ちしております！

第26回SST全国経験交流ワークショップin仙台 実行委員会

『第26回SST全国経験交流ワークショップin仙台』運営事務局

株式会社トリョウビジネスサービス内
〒104-0045 東京都中央区築地2-3-4-9F

e-mail: 26workshop@jasst.net

Tel: 03-3547-9664 (平日9:00~18:00) Fax: 03-3547-9684

5 SSTに役立つアセスメント

小山 徹平：鹿児島大学病院

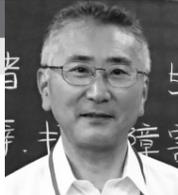
ライブアセスメントを中心に学びます。ライブアセスメントとは、1回目のロールプレイ（ドライラン）の際に行われるもので、事前アセスメントを踏まえ、その場でスキルを評価します。「受信-処理-送信の視点」「“場面”のアセスメント」「強化子等の後続刺激の同定」等のポイントについて、事例の再現を通して実際に学びます。



6 コインマップからひとりSST

品田 秀樹：新潟県長岡地区保護司会

コインマップは、コインを使って当事者と一緒に現状の対人関係を整理し具体的な取組目標を見出すアセスメントに関する技法です。人間関係をゲーム感覚で視覚的にとらえ、ひとりSSTへとつなげます。好評で終了した第25回徳島ワークショップ参加の方々のアイデアをさらに進化充実させます。



7 教育現場のSST

皿田 洋子：一般社団法人SST普及協会副会長／六本松心理教育臨床オフィス

本徳 勇気：福岡大学人文学部

この分科会では、教育領域、主に公立の小学校におけるSSTの3年間における実践を報告すると共に、実際にどのように進めているのかを体験しながら学んでいただきます。また、教育領域でSSTが活用しやすくなるためにどのような手立てが考えられるか、皆さんと共有したいと思います。



8 患者と家族の相互理解のためのSST

島田 栄子：神奈川県立精神医療センター 荻香病院

地域で継続してきたSSTが家族（患者は別医療機関等）との混成となったのは、作業所等からの依頼の家族相談がきっかけです。面談をしていくうちに、当事者理解のためには、「回復している彼らと触れることだ」と参加をお誘いしました。彼らの言葉によって、「前向きになれた、自分も楽になれた、このような場は必要だ」と意見を頂いています。当日は、メンバーの一部も参加予定です。



9 ひとりSSTを用いた就労支援

白瀧 光男：こおりやま ほっとクリニック 浅野 智子：こおりやま ほっとクリニック

近年、日本でも本格的に「援助付き雇用」を行うところがふえつつあります。これまでの就労援助モデルとは違った「援助付き雇用」について紹介したうえで、リハビリの場ではなく就労の場で求められるSSTであるIVAST（実地SST）について触れます。ひとりSSTを使った実践体験も行います。



10 発達障害の子どものためのSST

金山 よし美：ハートランドしごきさん子どもと大人の発達センター

ASDの子ども達は、内省する事が難しく、「自分うまくいっている」と捉えがちであることから、対人関係の〈適応/不適応〉を自分自身で「気づく」事が重要です。日常に起こりやすい環境をSST場面で意図的に作り、安心して失敗できる機会を通して〈気づき〉を導き、「成功したい」というモチベーションから良い行動を強化するSSTを紹介します。



11 利用者と上手に関わるために ～何を話すか。どう話すか～

佐々木 敬：岩手県立南光病院

地域で活躍している支援員・世話人の皆様が利用者について勉強する機会が少ないのが現状です。ここ2年ほど一関市のくらし部会からの依頼があり、支援員・世話人向け学習会を行い、短い時間の中でしたが有意義な研修会ができました。今度はWSに参加してくださる皆様と一緒に勉強していきたいと思ひます。



12 認知機能リハビリテーションとSST併用の効果検証：VCAT-Jに習熟する

松田 康裕：奈良県立医科大学附属病院 盛本 翼：奈良県立医科大学精神医学講座

SSTに認知機能リハビリテーション（CRT）を併せて行うことで、社会機能のさらなる改善効果が期待される。そのため、2019年度よりSST普及協会協力のもと、SSTとCRT併用の効果研究チームが発足した。本分科会では、本研究に参加されている方（興味をお持ちの方）を対象に本研究の概要について説明し、参加者がCRTを体験し、講師陣がスーパービジョンを行うことが目的である。



13 刑務所でのSSTを紹介しす

前田 ケイ：一般社団法人SST普及協会顧問／ルーテル学院大学大学院

刑務所でのSSTは2006年（平成18年）に始まりました。まず就労指導の領域で実施されたSSTはその後、多様な広がりを見せています。職業訓練、求職活動、アルコール離脱指導、親子関係講座、出所準備、その他の領域で行われているSSTの様子を、実際の指導にあたっている者らをご紹介します。



14 訪問サービスに生かす服薬自己管理プログラムの実際

齋藤 百枝美：帝京大学薬学部実務実習研究センター 橋本 俊英：上毛病院 中島太一：中島映像

服薬アドヒアランスの向上は退院と地域生活を行うために大変重要となります。服薬自己管理モジュールは、認知機能の低下した患者さんに対しても服薬に関する知識と技能が学べるように作成されたプログラムです。在宅訪問支援の中でiPadやPCを用いて短時間で個別に実施する服薬自己管理モジュールの活用方法について学びます。



15 家族支援の進め方

浅見 隆康：群馬大学健康支援総合センター

分科会では、用意した設問を基に、家族教室という取り組みの中で必要な家族支援につき、参加者とともに考えたい。家族教室を始めることを想定して、構造や内容、参加した家族からの感想や質問、どのようにSSTを取り入れるかを参加者みんなで検討していく。地元群馬県で23年目を迎える家族教室「土曜学校」のコツやノウハウを紹介して伝授したい。



16 誰でも参加できるSST

村本 好孝：株式会社ここから

全国で開催されるようになった『誰でも参加できるSST』。今回担当の村本も北海道札幌市で1回/月、仲間と一緒に開催しています。今回の分科会では、札幌で行われている実践をもとに実際に参加者がお持ちの課題と一緒に練習できたらと考えています。日々の出来事（公私関係なく）や支援方法も…なんでも練習しましょう。



17 心理教育と家族支援

後藤 雅博：こころのクリニック ウィズ

本分科会では、治療の基礎となる心理教育から始めて、家族支援の観点から家族心理教育を学び、デモンストレーション、ロールプレイを通して、体験的に学習し、また現在SSTと家族支援に携わっている方々の経験交流を通してさらなる技術的向上を目指したいと思います。



18 SSTのアセスメントとしてWAIS & WISCから社会認知を推測する

白瀧 光男：こおりやま ほっとクリニック 浅野 智子：こおりやま ほっとクリニック

認知行動療法を理論背景としているSSTを行う上で、アセスメントとして参加者の認知機能を把握しておくことは重要です。認知機能検査としても使用されるWAISやWISCは認知機能だけではなく、社会認知の推測にも役立つ可能性があると考えられようになってきました。その考え方についてお話しします。



19 UBOM研修会 —SSTにも役立つ簡易な精神機能評価

丹羽 真一：一般社団法人SST普及協会会長／福島県立医科大学会津医療センター

臺式簡易客観的精神指標検査（UBOM）は心拍数変動テスト、乱数生成テスト、物差し落としテスト、バウム・テストを組み合わせた精神機能評価の簡易なテストです。UBOMは当事者と支援者が共同意思決定するツールとなるので、SSTの際のアセスメントにも使えます。本分科会ではUBOMの実際を体験してもらいます。



保護司割100人ワークショップ

品田 秀樹：一般社団法人SST普及協会保護司研修特別委員会

ルーテル学院大学名誉教授、前田ケイ先生が保護観察官自主研修会でSSTを紹介されてから31年経ちました。現在、保護司初級リーダーは約1000人を数え、中級研修会も予定されています。保護司面接に役立つ「コインマップ+ひとりSST」を初めての方もベテランの方も一堂に会し楽しく学習する企画です。

